

3 漁業・漁村の活性化を支える取組

(2) 漁港の長寿命化

《取組のポイント》

1 漁港施設の長寿命化対策

- ・老朽化した施設が増加していることから、緊急度・重要度に基づき、予防保全の考え方に基づく、持続可能なインフラ管理を行う
- ・機能保全計画に基づく予防保全型の老朽化対策への転換、新技術活用等による持続可能な維持管理体制の構築

【背景】

- ・高度経済成長期（1960年代以降）に建設されたものが多いため、コンクリート部材の欠損・破損、鋼製部材の腐食等の老朽化が問題となってきた。
- ・今後、維持管理・更新費の増大が懸念される。

《取組の内容》

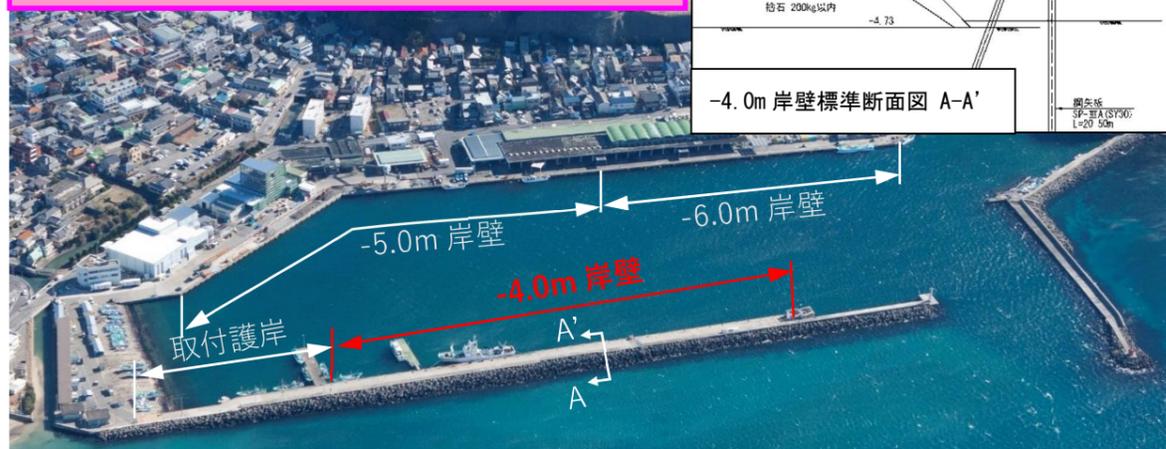
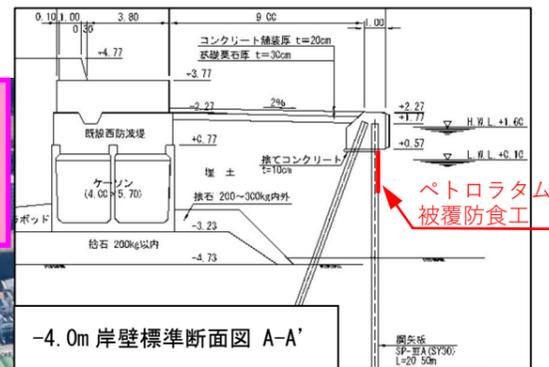
《これまでの取組》

- 県営19漁港で機能保全計画を策定
県営19漁港において現況調査を実施し、令和2年度までに機能保全計画を策定
- 県営13漁港で保全工事を実施
 - ・機能保全計画に基づき、補修の緊急性が高い岸壁等の対策工事や維持浚渫を実施
 - ・実施中の県営13漁港
銚子、外川、飯岡、片貝、太東、大原、勝浦、小湊、天津、和田、千倉、乙浜、富津
 - ・保全工事（対策）の実施内容
 - 外郭施設（防波堤等）、係留施設（岸壁・物揚場等）
：被覆防食工、電気防食工、断面修復工など
 - 輸送施設（臨港道路）：アスファルト・コンクリート舗装工、ひび割れ補修など
 - 水域施設（航路・泊地）：浚渫工
 - ・保全工事完了後は、当該機能保全計画の更新を行う

○ 漁港施設の長寿命化対策の取組事例（勝浦漁港）

事業内容

- ・事業名：水産基盤ストックマネジメント事業（機能保全）
- ・対象施設：**岸壁**、取付護岸等



《事業イメージ》

○ 保全工事 対策内容

機能診断結果

(調査時)当該施設は建設後約25年が経過し、詳細調査により鋼矢板の腐食が確認され、施設の老朽化が進行して、肉厚測定結果から干満部の残寿命が約8年であることが判明。

対策工法

機能保全計画に基づく予防保全型の老朽化対策として、既設鋼矢板に対し、ペトロラタム被覆防食+電気防食を施して、腐食の進行を抑える。

早急な対策が必要



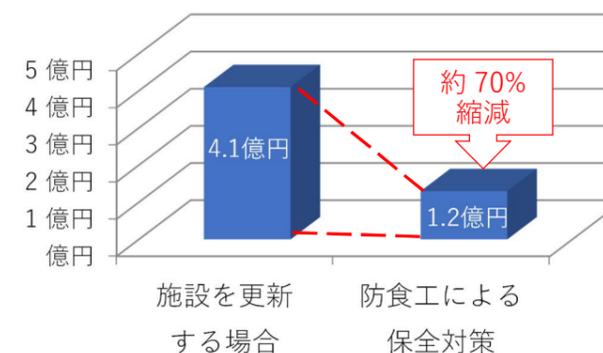
調査の結果、鋼矢板の腐食を確認

対策工法「被覆防食工」



対策：ペトロラタム被覆防食工

コスト削減効果



今後50年間における維持管理・更新コストを約70%削減。

予防保全型の老朽化対策を実施し、施設の長寿命化と更新コストの削減が図られた。